



国際ロータリー第2750地区

東京目黒ロータリークラブ Rotary Club of Tokyo Meguro

ロータリークラブとは	会長・幹事挨拶	クラブ概要	役員・理事	年間活動計画
同好会	メーキャップ	入会・間合わせ	リンク	東京目黒RCあれこれ

国際ロータリーがポリオを撲滅に立ち上った理由（その2）

真野 博記

2009年世界的なインフルエンザの流行を水際で食い止めようと日本政府が様々な対策を講じたことは、耳目に新しいところです。ワクチンは先ず医師、看護師、子供、お年寄り、次々に大人へと接種対象者に順序をつけ流行を源から絶とうとしました。10人用のワクチンでは、最後の2人をこのビンから使うと、残り8人分は余ってしまうので1人用を作ってほしいという声も上る程でしたが、数千万人分というワクチンは日本だけではまかない切れずに輸入に頼り、インフルエンザが終息してみれば大量に余るといふ嬉しい悲鳴も上がりました。空港では飛行機の中での聞き取り調査、入国審査場は長蛇の列でパスするまで数時間もかかる有様でした。それでも水際作戦防疫の為に日本人も外国人もじっと耐え忍びました。それは過去に起ったスペイン風邪や香港風邪の流行を教訓にした防疫体制で、もしその教訓がなかったらどれ程の人が発症し、死亡していたことだろう。

またそれは、アメリカに於ける小児麻痺ポリオから得た教訓でもあったようです。国際ロータリーの機関誌ザロータリアン6月号によれば、世界で最初にポリオの特徴である片足の変形した聖職者の絵が描かれた石板はなんと紀前158～1342年もの前のことでした。（写真上）風土病であるポリオは恐らく、旧約聖書にあるイスラエルの民のエジプト人脱出によってイスラエルから中東へと持ち込まれ、やがて中東全域に広がったポリオはパキスタンを通じてインドから東南アジアへ、またシルクロードを通じて中国、朝鮮、日本と伝わったに違いありません。他方ヨーロッパへはキリスト教徒、イスラエル教徒の往来、十字軍等によって伝播したのかも知れない。その詳しい伝播経路がわからないのは現在宮崎県下で育成農家ばかりか、その他の産業にまで影響を及ぼしている、牛や豚にかかる伝染病の口蹄疫がどこからどのような経路でやって来たか解らないのと似ています。1900年代初頭アメリカで大量発生したポリオに対する恐怖は正に宮崎県民の夫に匹敵するものであろうと考えられます。

処でポリオに関する記述は1789年には既に存在し1835年にはイギリスの工場で4人のポリオ患者の発生が報告され1840年にはヤコブ・フオン・ハイネ医師によってポリオは伝染病であると公式に認められたのでした。アメリカに於ける最初のポリオは1894年イギリスからの移民によってつくられたバーモント州（アメリカ東北部）で発生しました。やがてカール・ランドスタイナー博士によってウイルスが原因で起こる伝染病であることが証明され、初めは、マラリアのように蠅によってそのウイルスが運ばれ伝染するものと考えられたのです。現在80才以上の人は鮮明に覚えているでしょう。1945年第二次世界大戦（太平洋戦争）が終わると進駐してきたアメリカ軍はシラミ退治として私達1人1人に頭からつま先までDDT白い粉の殺虫剤を吹きかけたものです。同じ年のアメリカ・タイム誌はアメリカ軍需省はポリオの流行に苦しめられていたイリノイ州（ロータリーの発祥地シカゴのある州）

ロックフォードの町全体を白い粉で覆うようにDDTの散布をみとめたと報道しました。蠅を絶滅してポリオを防ごうとしたのです。このDDTはのちに人体に害があるというので、アメリカでも日本でも散布は禁止されました。しかし現在は蠅によって伝染するものではなく腸内にあるポリオ細菌が環境の悪さから人から人へと伝染するもので特に貧しい人に多く、気温の高い夏秋に伝播するウイルスであることが知られています。私達が浴びたDDTの粉は蠅を駆除することによるポリオの発生を防ごうとする

一連の実験であったのかも知れません。敗戦当時貧しく、しかも夏から秋へかけての悪い時期だったのでその環境を改善する為の手段でもあったのでしよう。

処でアメリカがポリオに苦しんだ歴史は悲惨なものでした。1916年初頭、27000人の患者が発生、その年の暮までになんと6000人ものが亡くなりました。ニューヨーク市では9,000人ものが発生2,343人ものが亡くなっているのです。1934年ロサンゼルスでポリオが発生した時、治療に当たった医師の5%、看護師の11%がポリオにかかってしまったのです。一昨年日本で発生した新型インフルエンザワクチンを先ず医師や看護師に与えたのもこの時の教訓からでしょう。処で小児マヒ（ポリオ）は読んで字の通り子供にしか発病しないと思われていたのですが、フランクリン・デラ・ノルーズベルトは39才の時に発病、その後アメリカ合衆国大統領になったのですが、このことが大人でもポリオにかかることをホワイトハウスから証明したのでした。第二次世界大戦（太平洋戦争）当時から日本でもそれは知られていました。太平洋戦争後7年目の1952年にはアメリカでは1分毎に1人の患者が発生公式記録によると57,879人という驚くべき数の患者の発生を見ました。又、記録にはありませんが1980年の最盛期には世界中のポリオの発生数は50万人に上り、麻痺や死亡という悲惨な状況に陥ったといわれ、その為に今から22年前のポリオ撲滅運動が始まったという訳です。ポリオの恐ろしさを知りつくしているアメリカだからこそイリノイ州シカゴを本拠とする国際ロータリーがその運動を始めたのでしようし、ビルゲイツ財団が2億ドルの基金を拠出すると申し出した理由もよく解ります。

しかし、2010年3月19日付読売新聞の報道によると今年の2月神戸市内の男児がポリオを発生。その原因は本人は予防接種を受けていなかったのも、他の子供に投与したポリオの生ワクチンによるポリオウイルスが移ったとの結論に達したそうです。ワクチンには生ワクチンと不活性化のワクチンがあり、生ワクチンは生きてウイルスである為、このような現象が起こるとか。日本ポリオの会の世界分布地図を読むと生ワクチンを用いている国は、日本、中国、モンゴル、北朝鮮、インド、マレーシア、パキスタン、カンボジア、ベトナム、スリランカ、インドネシア、香港、ニューギニア、アフガニスタン、トルクメニスタン、イラン、イラク等々の国では毒性が少ないとは云え、生きているポリオウイルスを使ったワクチンを予防接種に使うので神戸の男児のような患者が発生するのです。日本では、神戸のような被害者の出ない不活性化ワクチンを開発、厚生労働省に認可を求めたのですが、追跡調査が充分でないとの理由で認可が下りず、遂に2005年治験と製造を中止、不活性化ワクチン使用の望みは絶たれました。今後の課題が私達に残されたといっって良いでしょう。国際ロータリーRIの公式機関誌ザロータリアンの詳しい解説によって、何故RIがポリオ撲滅に熱心なのかが理解出来た2010年6月でした。

戻る